

第14回環境コミュニケーション大賞（環境報告書部門） 採点基準①ー5（地球温暖化対策報告大賞）（平成22年版）

温室効果ガスの削減、その他気候変動対策について、斬新かつ具体的な数値目標を示して取り組みを進める企業であって、その取り組みを社会に広く伝える工夫を行っている最も優れた報告書

環境報告書、持続可能性報告書として優れた者の中で、特に下記の視点等で選考する。

日本はG8で2050年に全世界で50%削減、先進国として80%以上削減の宣言にサインしているので長期ビジョン・目標に重点をおいた。

1. 2050年に向けた長期ビジョン・目標がある。.....MAX 20
「3」 理念や社長の緒言だけでなく明確に目標とされそれに向けての道筋戦略の記述もある、等。
「2」 長期ビジョンと緒言でのコミットメントがある、等
「1」 ビジョンらしきものが読み取れる、等
「0」 記載なし
2. 2015～2020年代の中期ビジョン・達成目標を掲げている。.....MAX 20
「3」 理念や社長の緒言だけでなく明確に目標とされそれに向けての道筋戦略の記述もある、等。
「2」 ビジョンと緒言でのコミットメントがある、等
「1」 ビジョンらしきものが読み取れる、等
「0」 記載なし
3. 少なくとも5年以上の期間を設定して大幅なGHGs削減目標を掲げている。.....MAX 15
「3」 大胆な明確が掲げられ、それに向けての具体的な道筋と戦略の記述もある、等。
「2」 緒言でのコミットメントと目標とがあり、どう達成するか戦略も記載されている、等
「1」 目標はあるが達成の道筋が必ずしも明確には示されていない、等
「0」 記載なし
4. 連結ベースで過去、大幅なGHGs削減を実現している。.....MAX 15
「3」 基準年を設定し、明確に記述され、はみ出る部分などについての説明もある、等
「2」 連結ではないが概ね国内外を網羅して上記に準じている、等
「1」 国内単独ベースで上記記述、等
「0」 部分的に削減したサイトのみを記述している
5. 低炭素社会に向けた提言をしている。
「3」 提言と自社の進むべき方向性と果たすべき責任を明確に記述している、等.....MAX 10
「2」 提言はしているが業界の立場で述べている、等
「1」 低炭素社会の記述はあるが一般論を述べている、等
「0」 記載なし
6. 既存テクノロジーと新しいテクノロジーを組み合わせ、新しいビジネス、生活モデルを提唱し、実績を上げつつある。.....MAX 10
「3」 製品開発方針と目標・実績が明確に記述されている、等
「2」 方向性と目標はしめしているが極めて部分的である、等
「1」 方向性を打ち出しているのみ、等
「0」 記載なし
7. 総合評価.....MAX 10
上記全体を総合勘案し、かつ独自の創意工夫や先導的な試み等も考慮し、総合評価する。

以上